

2021. 6. 1

# 歴史民俗資料館だより No.139

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

TEL (095) 847-9245 (FAX 兼用)

<http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p009251.html>

## 戦時中の暮らし展

**会 期** 6月10日(木)～8月15日(日)

**展示品** 戦時中の校舎の看板・貨幣・紙幣・軍事郵便葉書・手製の教科書・大東亜戦争世界要図・旭日旗寄せ書き・防空頭巾・もんぺなど 約250点

昭和12(1937)年の日中戦争勃発以降、第2次世界大戦へと向かい、日本は、永い戦時体制へと突入していきました。

そして長崎は、昭和20(1945)年8月9日に原子爆弾が投下され、約24万人の市民の半数以上が死傷するという悲惨な被害を受けました。

その当時、人々は様々な統制を強いられ、「ほしがりません勝つまでは」と質素、節約の暮らしをしなければなりません。日常生活に必要な物も手に入りやすく、代用品や代用食がさかんにつくられました。

現在の豊かな生活と対比し、平和の尊さを考える機会として、このたび当館では「戦時中の暮らし展」を開催いたします。

今回の展示に際しまして、貴重な資料をご寄贈、ご提供いただきました齋藤節子様、松尾茂様を始め、関係各位に深く御礼申し上げます。



**手製の教科書**  
昭和20(1945)年に現物がなく、女学校の学生(13歳から14歳)が教師となり、小学6年生の教科書の挿絵を除き、1冊163頁全てを筆写したものです。



戦時中の校舎の看板  
齋藤節子氏寄贈  
戦時中



国防・防護団の記章

昭和11(1936)年、戦時または事変に際し、警備・防空の必要に備えるため、市内各種団体による市防護団がつくられました。翌年、国防婦人会長崎支部ができました。



戦時関係資料  
戦時中  
松尾茂氏寄贈



雑囊・水筒  
旧陸軍兵士の三十キログラム以上の装備の内の一部です。



### 紙芝居 昭和16年

少女を通して、勤労の尊さ、お米のありがたさを知らせようとしています。



### 恩賜の煙草

戦場で兵士が天皇陛下からいただきました。「賜」の文字の箱の中に日本専売公社製で菊の御紋の付いた煙草10本が収められています。



### 旭日旗寄せ書き

出征兵士のために、友人、関係者から武運長久を祈願して、寄せ書きされたものです。



### 防空頭巾ともんぺ

戦時中、空襲から頭部を保護するための防空頭巾と動きやすいもんぺは欠かせないものとなりました。



### 軍用手票

戦地、占領地で兵士が通貨の代用として使用した手形です。昭和15(1940)年の10円札と昭和19(1944)年の100円札です。



### 園芸写真新報

太平洋戦争が始まる昭和一六(一九四一)年一二月まで、月刊の娯楽雑誌として愛読されました。



### 半鐘

昭和16(一九四一)年に政府は、兵器生産のために、金属回収令を出して供出させました。この半鐘もそれに伴い、供出されたものです。